

平成30年6月10日

第161号

NJ 素流協 News

平成30年6月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

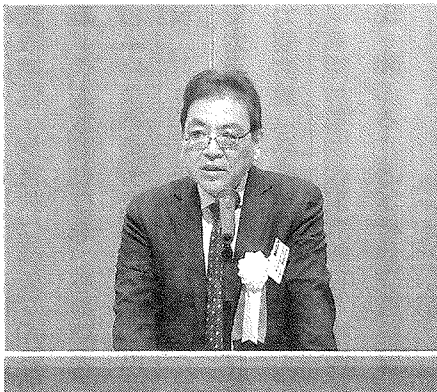
ノースジャパン素材流通協同組合 第15回通常総会開催

NJ素流協は5月21日、第15回通常総会を盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて開催し、来賓、組合員等約120名が出席した。

1 開会・理事長挨拶

横澤孝一副理事長の開会の辞に続いて、鈴木信哉理事長が次のように挨拶した。

「平成29年度は共同販売取扱量の目標を40万㎡としていたが、皆様の協力により44万㎡となった。これに国有林委託販売を合わせると45万㎡



鈴木理事長の挨拶

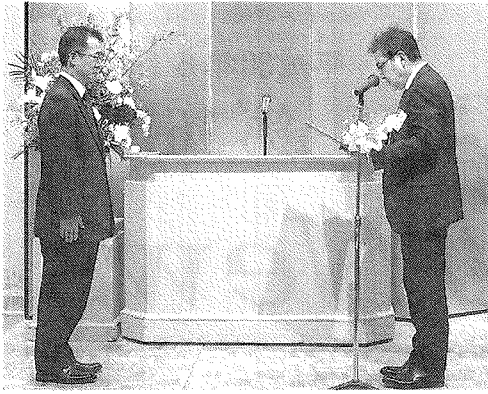
となる。大きく目標を超えることができ、皆様に感謝申し上げます。

当組合の目的は丸太を共同販売するだけではなく、組合員の皆様のニーズにお応えすることにある。昨年度は、『どうしたら林業事業体に若者が定着するか』『広葉樹ビジネスの今後についてどう考えるか』の2つのテーマで林業講演会を開催した。その他研修会、特別技能講習会など、様々な形で皆様のニーズにお応えしたつもりである。さらには宮城県名取市の海岸防災林復旧事業『ノースジャパン100年復興の森』の企画・実施、岩手県林業技術センターと共同でのカラマツ強度試験、不足するカラマツ種子の確保に協力する事業など様々な活動を行ってきたが、これはひとえに皆様のご協力の賜物と感謝している。

さて、国産材業界では『住宅着工戸数が減ったら』という心配をされ

るが、今はむしろ、外材から国産材へ切り替えが一番の大きなポイントであると考えます。住宅着工戸数が影響しないとは言わないが、それよりも今以上に外材に替えて国産材を使うかが、大きく求められているところではないか。合板の国産材率は平均50%程、製材工場も同様である。

日本の木材自給率は35%なので、国産材が活躍できる場所がまだまだ沢山あると言える。さらに、非住宅分野に国産材が使われる余地が残されている。それらを目指して我々は一生懸命やっていきたいと思っております。それには需要側と供給側がウィン・ウインの関係でなければ成り立ちません。昔で言う『安く買って高く売りたい』だけでは仕事は長続きしません。ウィン・ウインの関係を作るには、仕事のやり方はギブ・アンド・ギブでなければなりません。有名な近江商人の言う『三方良し』の心である。当組合の職員一同は、ギブ・アンド・ギブの精神に則り、ウィン・ウインの関係が続くように努めていきたいと考えています。



川井林業硝石工場 花館総務課長が感謝状受領

本日はご多忙のところをこのように多数ご参集いただいた。皆様方の忌憚のないご意見をうかがって、これからの組合運営に努めていきたいと思います。

2 感謝状・記念品贈呈

平成29年度の当組合取組みにおいて多大な協力と貢献をした工場と組合員に対して、感謝状と記念品を贈呈し、感謝の意を表した。

▽岩手県におけるカラマツ強度調査協力者(6名)

(有)川井林業代表取締役社長 澤田令氏(代理・同社硝石工場総務課長 花館宏範氏)、小野寺隆治氏、高橋木材代表 高橋清志氏、本宮木材(株)代

表取締役 本宮久仁彦氏、(有)谷地林業 代表取締役社長 谷地讓氏、(株)吉本岩泉事業所取締役所長 由井正宏氏

▽カラマツ種子採取プロジェクト協力組合員(2名)

横澤林業(株)代表取締役 横澤孝一氏、(株)ふるさと木材代表取締役 山辰也氏

▽海岸防災林再生活動における植栽用苗木寄付者(3名)

(有)早稲谷・菅原苗木店代表取締役菅原昌樹氏、鬼首振興(株)代表取締役高橋峻氏、菅原木材代表 菅原達雄氏

▽ホクヨープライウッド(株)における大径木処理作業協力組合員(1名)

(有)松田林業取締役 松田格氏

3 来賓祝辞

来賓を代表して、東北森林管理局長 小島孝文氏、岩手県農林水産部長 上田幹也氏(代理・技監 阿部義樹氏)、岩手県森林・林業会議理事長 中崎和久氏、日本合板工業組合連合会会長 井上篤博氏(代理・ホクヨープライウッド(株)資材課長 伊

香立司氏)から御祝辞を頂いた。

4 議事

議事に先立ち事務局から総会の成立(組合員総数151名中本人出席45名、委任状出席22名、書面議決書提出72名)が報告された。続いて(有)谷地林業代表取締役社長 谷地讓氏が議長に選出され、提出議案の審議・承認と、任期満了に伴う役員改選が行われた。主な内容は次のとおり。

▽議案第1号「平成29年度事業報告書及び決算関係書類承認の件」

・平成29年度の共同販売事業における素材取扱数量は、合板工場や集材工場向けが32万4760m³、バイオマス材が11万8539トンとなった。国有林素材の委託販売では8千m³余を取扱った。バイオマス材1トン11m³とすると、取扱数量合計は初めて40万m³の舞台に乗り、45万1592m³となった。

・低コスト再造林を促進する支援システムの取組みとして、県内の林業7団体とともに「岩手県森林再生機構」を立ち上げ、林業、木材産業関係者からの協力金を基金に積み立て、

森林所有者の再造林に助成金を交付する仕組みを構築した。

・技術開発、技術指導、情報提供に関する事業として、①技術開発と定着化(低コスト再造林の推進、運送業者組織化と効率的運搬の取組み支援、岩手県におけるカラマツ強度調査等)②研修会、林業講演会等の開催③技術指導(合法木材等供給事業者研修会の開催、いわて林業アカデミー研修生の受入れ指導等)④情報提供等(NJ素流協ニュース発行、地区別組合員会議の開催等)を実施した。

・国、県、林業関係団体等からの助成や受託、共同による事業として、①需給情報共有化対策事業(東北地区需給情報連絡協議会等)②花粉症対策苗木への植替促進事業③下刈作

表1 平成30年度共同販売計画量

区分	計画量
合板用素材	210,000 m ³
製材・集成材用素材・その他	145,000 m ³
計	355,000 m ³
バイオマス材 発電用	125,000 t

表2 新役員名簿(三役以外の氏名は五十音順、敬称略)

役職名	氏名	所属団体
理事長	鈴木 信哉	ノースジャパン 素材流通協同組合
副理事長	横澤 孝一	横澤林業(株)
常務理事	高橋 早弓	ノースジャパン 素材流通協同組合
理事	伊藤 賢二	丸巴林産(株)
理事	及川 喜久平	(株)鹿児島屋
理事	大粒来 仁孝	(有)丸大県北農林
理事	門脇 桂孝	(株)門脇木材
理事	茅森 貴三男	岩手県国有林材生産 協同組合連合会
理事	川崎 幸宏	青森県森林整備事業 協同組合
理事	高橋 清志	高橋木材
理事	坪 晃	青森県国有林材生産 協同組合
理事	松田 成輝	(有)松田林業
監事	小林 拓夫	(株)昭林
監事	野 邑 計	(有)道又林業

業低減技術開発を実施した。
 ▽議案第2号「平成30年度事業計画書及び収支予算決定の件」
 ・共同販売計画量は表1のとおり。
 ・東北森林管理局委託販売業務において素材9600m³を取り扱う。
 ・森林再生に関する事業として、①岩手県森林再生基金事業の推進②低コスト再造林の促進③海岸防災林再生活動に取り組む。
 ・技術指導と調査研究、情報提供に関する事業として、①林業経営講座等研修会、講演会等の実施②合法木材・バイオマス材供給事業者認定、

「皆伐施業ガイドライン」取組み指導、いわて林業アカデミー研修生の受入れ指導等③下刈作業低減技術開発、原木トラック運送の効率化とネットワーク構築に向けた取組み、岩手県におけるカラマツ強度調査④NJ素流協ニュース、ホームページ、地区別組合員会議等による情報発信・交換等に取り組む。
 ・受託事業として、①需給情報共有化対策事業②下刈作業低減技術開発に取り組む。
 ▽議案第9号「役員改選の件」
 新役員14名は表2のとおり。

トピックス

東北地区原木トラック運送協議会 第2回定時総会を開催

東北地区原木トラック運送協議会(松田光治会長)は5月21日、盛岡市において、第2回定時総会を開催した。平成29年度事業報告では、原木トラックの前部潜り込み防止装置の基準緩和について要望を行ったこと、原木トラック運送事業者を国や県の林業・木材産業振興施策の対象に加えるよう要望を行ったことを報告した。なお後者については、林野庁「木材産業等競争力強化対策」の補助対象として認められ、平成30年度の実施要領で、事業実施主体に原木運送業者を加えることが明記された。
 平成30年度は、原木運送事業の改善を図るため、引き続き要望陳情活動を行うほか、事故防止・環境保全対策等を行うこととしている。

全素協第44回通常総会 に出席

全国素材生産業協同組合連合会第44回通

常総会が5月24日、東京都において開催され、当組合から鈴木理事長と高橋常務理事が出席した。会長に宮崎県造林素材生産事業協同組合連合会理事の日高勝三郎氏が再選された。

「結婚おめでとうございます」

東林業代表 東忠男氏のご長男 兄貴さんがこの度ご結婚されました。5月21日の当組合の通常総会には、新婦由香さんを伴ってご出席いただきました。お二人の末永い幸せを心からお祈り申し上げます。



平成30年度合法木材等供給事業者認定更新研修会を開催

当組合は合法木材等供給事業者認定団体として、組合員を対象に認定を行っている(平成30年3月末現在の認定事業者数11

12事業体)。

認定の有効期間は3年間で、現行の認定が本年9月末で期限を迎えることから、今年に入って、認定更新の条件となる研修会を開催している。5月21日には盛岡市において、第2回目の認定更新研修会を開催した。組合員20名が出席し、合法性証明と発電用木質バイオマスの証明に係るガイドラインの内容や、証明の仕組みについてあらためて確認した。

県産材供給連絡会議に出席

岩手県林業振興課が主催する第1回県産材供給連絡会議が5月30日、盛岡市で開催され出席した。

盛岡森林管理署、県内木材関係団体が参加し、県産材の安定供給に向けて、情報共有、意見交換が行われた。30年度は3回の開催を予定。

鈴木理事長が原木流通事情について講演

鈴木信哉理事長は5月30日、横浜市にて全国の製材・合板工場向けの勉強会として講演を行いました。

講演タイトルは『需要の変化で変わる原

国有林素材山元委託販売 入札結果

市日: 平成30年5月31日(木)
市場: 岩手北部森林管理署

(参加人数7名)

売払番号	樹種	長級 (m)	径級 (cm)	等級	本数	材積 (m ³)	応札枚数	土場
※101-1~3	LA	2.20		低質材	層積	139.639	3	茂谷地
※101-4~5	スギNA	2.00		低質材	層積	103.509	4	桃ノ木沢
101-6	カラマツNA	2.00		低質材	層積	27.896	4	桃ノ木沢
※101-7~10	アカマツNA	2.00		低質材	層積	236.728	4	桃ノ木沢
101-11	LA	2.20		低質材	層積	74.517	3	桃ノ木沢
101-12	LA	2.20		低質材	層積	78.748	2	桃ノ木沢
101-13	LA	2.20		低質材	層積	62.251	2	桃ノ木沢
101-14	LA	2.20		低質材	層積	57.698	2	桃ノ木沢
101-15	LA	2.20		低質材	層積	35.668	2	桃ノ木沢
101-16	LA	2.20		低質材	層積	44.636	3	桃ノ木沢
101-17	LA	2.20		低質材	層積	59.727	2	桃ノ木沢
101-18	LA	2.20		低質材	層積	154.383	2	桃ノ木沢
101-19	LA	2.20		低質材	層積	4.196	3	桃ノ木沢
101-20	LA	2.20		低質材	層積	2.801	2	桃ノ木沢
101-21	LA	2.20		低質材	層積	2.767	1	桃ノ木沢
101-22	LA	2.20		低質材	層積	6.778	2	桃ノ木沢
※101-23~29	LA	2.20		低質材	層積	343.454	2	桃ノ木沢
101-30	カラマツNA	2.00		低質材	層積	12.701	3	芦名沢
※101-31~34	アカマツNA	2.00		低質材	層積	144.849	3	芦名沢
※101-35~44	LA	2.20		低質材	層積	282.182	2	芦名沢
101-45	アカマツNA	2.00		低質材	層積	20.034	4	貝梨峠
101-46	アカマツNA	2.00		低質材	層積	21.370	4	貝梨峠
101-47	LA	2.20		低質材	層積	11.989	3	貝梨峠
合計						1,928.521		

※は落札単価、入札枚数同一のため合算して記入しました。

木流通』で、住宅や公共物件等の木材需要動向、また薪やおが粉といった建築以外の木材需要の重要性について解説しました。そのうえで、製材・合板の国産材化やバイオマス発電の普及などによる原木需要の増大に対応するためには、山元からの直送や中間土場の設置、原木トラックの大型化や運送業界との連携、山側と工場との真の情報共有が重要などとし、ノースジャパンス素流協の取り組みについて紹介しました。

管内需要先情報

1. 花巻バイオチップ(株)は、6月20日より1m材の受け入れを開始します。樹種はスギ・アカマツ・カラマツです。規格の詳細についてはN J素流協までお問い合わせください。
2. 樺細工に用いるヤマザクラの樹皮は、6月前後の限られた時期に立木の状態で採取する必要があり、慢性的に不足しています。ヤマザクラを一定数含む山林を伐採予定の方は、N J素流協まで情報をお寄せください。

地区別組合員会議開催案内

詳細は通知文書、ウェブで。

地区	日時	会場
①七戸町	6月20日(水) 13:00~	七戸中央公民館
②遠野市	6月21日(木) 13:00~	あえりあ遠野
③一戸町	6月26日(火) 13:00~	一戸町 町民文化センター
④一関市	6月27日(水) 13:00~	かんぼの宿 一関

今月の名木・巨木 40 (宮城県青葉区青葉町)

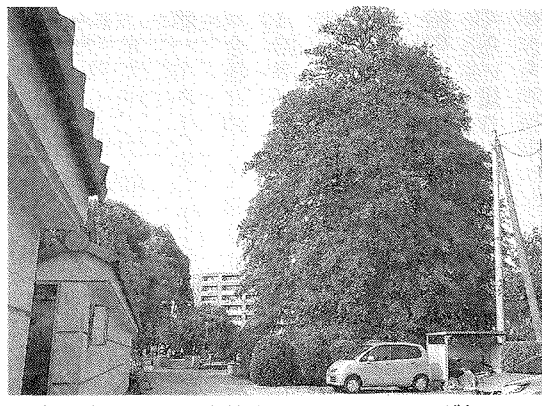
国指定天然記念物

東昌寺のマルミガヤ

指定：1995年(平成7年)

3月20日

所在：仙台市青葉区青葉町8-1



お寺の裏に回ると突然大きなシルエットが視界に。

仙台藩主伊達家の菩提寺、北山五山の東昌寺の裏手にマルミガヤはある。

樹高約23m、幹周4.9m、根元は高さ1.5mのところまで二つに分かれる(2本が癒着したという説もある)。巨大な緑の紡錘形の

姿が突然視界に入った時のインパクトはなかなか大きい。

東昌寺は1283年(弘安6年)、伊達家第四代政依により陸奥国伊達郡(現在の福島県)に創建され、その後居城が移ると共に各地に移

されたが、第十七代政宗が仙台に城を築いた1601年(慶長6年)に、現在の場所(正確には、現在の青葉神社の位置)に建てられた。

マルミガヤの案内看板には「東昌寺が仙台城の鬼門にあることから、伊達政宗が鬼門よけとして植えた」と伝えられている」とある。城郭や町の守りとして、鬼門とされる丑寅(北東)の方角に神社を建てることは全国で行われてきた。

マルミガヤの推定樹齢は500年という事なので、仙台藩が開かれた時にはすでにこの地に生えていたか、あるいは言い伝えのとおり政宗公がここに植えさせた(移植した)のかも知れない。

マルミガヤが国指定天然記念物

になった理由は、「種子が仮種皮をつけたままで、直径が2.2cmと小さく著しく丸いのが特徴で、わが国固有のカヤノキの一品種として唯一のものであり学術上価値が高い」(文化庁「国指定文化財等データベース」より引用)と解説されている。



撮影は7月。青梅のような丸い実が鈴なりに。

普通のカヤの実と比べてみようと、盛岡城跡公園のカヤの木の根元に落ちていた実を拾ってきた。が、こちらも結構丸いように見えます。ネットで検索してみると、細長いものから、このように丸っこいものまで、実の形の変異はかな

り大きいらしい。



盛岡の公園で拾ったカヤの実

カヤの実には独特の匂いがあるが、中の種子を炒って食べると、ちようどアーモンドを食べるような感覚だ。栄養価の高いナッツだそうだが、匂いや渋味のため、美味しいかと問われると好みは分かれるかも知れない。

カヤの材は、碁盤や将棋盤が作られることで有名だ。柾目の分厚い盤など、数百万円の値段が付くものもあるそうだが、そもそもそのような高級品となるカヤは、樹齢数百年の名木巨木だったのでないだろうか。今やそのような木は無くなってしまい、高知の碁盤製造会社では「300年先を夢見て」カヤの森づくりに取り組んでいるということだ。

ちよつと気になる木の話

23

合板業界の次の一手で

期待できること

→ A K G 50 を超えて

合板業界は、工場新設が続ぎ、好調を維持している。好調だからこそ、次の一手に期待していることを考えてみたい。

まずは、三大需要を押さえることが第一である。やつとここにきて、構造用合板に続いて複合床板基材合板の自給率が高まってきている状況にある。

需要の第一である構造用合板は、自給率は確かに高いが100%には20%ぐらい足りない。その理由は、フェースとバックにある。もちろんランワンにこだわっているメーカーもあるにはあり、輸入単板の使用もある。しかし、一番の問題は特注合板にあると思う。合板企業のHPを見れば、3×6以外の合板が3×8、3×9、3×10…と多種ある。全国の合板工場のある港湾に行けば、12mの米マツの丸太を見ることができ。これを特注寸法に裁断

して利用するのである。12m材を納入することは難しいので、定期的に必要寸法を協力して出せれば、更なる国産材率の向上につながる事となる。

次は、単板工場の創設にある。現在の合板工場は、単板から合板まで一貫生産工場である。カラマツの単板は輸入されているが、工場が必ずしもカラマツの巨大産地にあるわけではない。ここに単板工場が立地されると、丸太と単板の輸送コストを考えれば国産材が有利となり、更なる国産材率の向上が見込まれる。

二番目の用途は複合床板基材である。国産材率は20%を超えてきたが、未だ南洋材輸入合板が多い。基材には節が小さい樹種が望ましいため、北海道のトドマツの使用が多くみられる。それなら、輪生節をはずせるストローブでも良い気がするが、日本にはほとんど成林していない。とすれば、節の無い(小さい)スギ・ヒノキでも良い気がする。価格面から二の足を踏むことになるが、かつての6尺製材用等を使

えば品質的には問題ない。今後、南洋材合板の価格が上がり続けければ、急速に国産材化が進むのではないだろうか。強度上の問題があれば片面圧密でも可能性があるかも知れない。更に重要なのは、床暖対応である。以前から話題になつてきているが、関係する複合床板工業会と日本合板組合連合会との一体となった製品化が望まれる。企業毎の技術開発も重要ではあるが、こういう時には総力戦が望まれる。

三番目の用途は、型枠合板である。この分野の国産材率は極めて低い。原因には価格面もあるが、品質面にも間接的な原因がある。型枠工事は材工込みで発注されるので、型枠工事業者では型枠の使用回数が多ければ人件費収入が大きくなる。そのため、使用回数に耐えられることが求められるのである。そこで、クリーンウッド法施行も考慮に入れ、完全なる合法性の確保、循環型社会の構築に向けて、発注元のゼネコンそのものが材工分離して材料支給を行うことも一策ではないかと思う。もちろん、ゼネコンの前に、公共工事であれば行政、民間工事

であれば発注企業が特注仕様として書き込むことも意義がある。いずれにしても、日本の規格は3×6、海外は4×8であり、日本市場より中国、インド市場が大きくなる中、日本向けの3×6の供給が減り、調達は減少していくのではと思われる。逆に、体格の小さなアジア向けの輸出も期待できる。

三用途全体で見ても重要なことはもう一つある。輸入元のインドネシア、マレーシアは経済発展が著しい。合板工場の経営者も次の世代に入り、他産業のほうへ関心が進むのではということである。今こそ合板業界の更なる一手が望まれる。

最後に、是非実現してほしいのが、仮囲いである。鉄板の仮囲いに緑の絵を描くくらいなら、国産材利用に向かつてほしい。合板でなくてもいいが、面材なので合板に期待したい。リース会社とのジョイントも必要である。更には、選挙用のアルミ製ポスター板に「地球環境にやさしい」と書かれて悔しくないのかは、産学官のすべての関係者の心に残る。次の一手に期待する。

平成30年5月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	9,678	84.8	109.7	13,084	146.9	136.0	22,763	112.1	123.4
カラマツ	2,463	83.7	96.3	262	162.4	45.8	2,725	87.8	87.1
アカマツ	2,750	67.1	163.7	0	*	0.0	2,750	67.1	148.4
その他	0	*	*	108	91.8	*	108	91.8	*
合計	14,892	80.7	114.0	13,455	146.5	129.8	28,346	102.6	121.0

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	5,903	79.0	104.1
カラマツ	1,125	93.1	93.1
アカマツ	2,021	63.0	62.5
その他	215	597.3	*
合計	9,265	77.7	91.6

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m ³)	製材・集成材・その他用 (m ³)	計 (m ³)	燃料用 (t)
スギ	21,086	21,990	43,076	13,377
カラマツ	5,407	423	5,830	2,333
アカマツ	6,848	0	6,848	5,232
その他	0	226	226	251
合計	33,340	22,640	55,980	21,194
目標達成率 (%)	15.9	15.6	15.8	17.0
計画量	210,000	145,000	355,000	125,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成30年5月の需給動向】

- 合板用素材は越材など順調に出材されことにより原木不足も解消され、在庫も安定した。
- 製材・集成材用素材は、未だ原木不足の状況が続いており適正在庫となっていない。
- 燃料用原木は引き合いも強く5月納入量が減少、6月以降の国有林の出材に期待したい。

耳からウロコ

流域管理システム別の検証
都道府県内で水が完結？

林業において流域管理システムがある。元々治山治水用語だったが、後に森林管理に適用した用語である。流域といえは川であるが、県内完結型はあるのだろうか？わかり易くいえば、県内に降った雨が県内の海に流れて完結する県があるのかどうかである。

北海道と沖縄県は誰が見ても完結しているの、ウロコからははずれる。まず、東北を見てみよう。北上川があるので、岩手県と宮城県は明らかに完結しない。岩手から馬淵川で青森県、米代川で秋田県、山形県小国から荒川で新潟県、福島は阿武隈川で宮城県、阿賀野川で新潟県へと流れ完結しない。よって、東北6県は完結しないのである。よく見ると、山形と福島の県境の板谷峠には、山形県から福島県へ流れ出る川がある。こうした微妙な境は、佐賀と長崎、熊本と鹿児島等全国各地に存在する。

他の地方を見てみても、東京の水源の多摩川、横浜の水源の相模川も源流は山

梨県にある。こうしたことから、水源地の林業活性化に努め始めたのは、琵琶湖水源の森林や木曾三川の森林が有名であるが、最近では、間伐材利用の動きも顕著である。

話は戻るが、どうも完結しているのは、石川県、鳥取県、香川県ぐらいかなどと思える。うそつ、もつとあるでしょうか？間違いやすい富山県神通川の水源は岐阜県奥飛騨、和歌山県紀ノ川の水源は奈良県吉野、徳島県吉野川の水源は高知県、高知県仁淀川の水源は愛媛県である。福井県は違うでしょうか？ところが福井県九頭竜川の最上部は岐阜県(旧)石徹白となっている。これは、住民の要請により県境が変更されたためである。また、香川県高松市の水源地は、湯水時有名となった高知県早明浦ダムである。このように、県内で水が完結する例は稀である。

水害防止は都府県単位では完結せず、かつて流送が木材流通の要であった時代も影響しているのか、現在も県境をまたいで流通している例が多い。そう単純にはいれないが、流域管理も一理はある。地図帳が好きな林業人は、寝っころがって見ては。